

「職員の中にそんな人がいるなんて、一体どうなってるんですか！」  
熱くなってテーブルを思い切り叩いてしまった。

ガシャン

衝撃でテーブルの上に飾られていた壺が落ちて割れた。  
やっちまったよ...  
「すみません、つい熱くなってしまって、壺は弁償します。」

「君は何という事を...」  
部屋の空気が変わった。

「この壺にどれほど価値があるのか分かっているのかね？」  
学園長が凄い形相で睨んでくる。  
さっきまでとはまるで別人だ。

「やっぱり高いんですよ...？」  
「君ごときが弁償できる代物ではない。  
仕方がないので、体で払ってもらいましょう。」  
ええ、どういう事だ？

「連れ行きなさい。」  
学園長が言った瞬間、何処からともなく黒服の男たちが現れて、俺を取り押さえた。

「うわ、何をやる止める！」  
暴れながらウィン・D先生に助けを求めたが  
ただ見ているだけで助けてくそんな気配は微塵もない。  
どうして...

俺は口と鼻を布で塞がれて意識を失った。

その19

目が覚めると、手術台の上に縛り付けられていた...

- E N D -

隊長とトロットの説教部屋

隊長「これが今度の実験体か。」  
トロット「はい、資料では元学生だとか。」

隊長「なるほど、例のルートからか。」  
トロット「負債は相当な額だったそうですよ。」

隊長「夢敗れたりか、フッ、だがこの実験で生まれ変わるさ。」  
トロット「生きていれば、ですが。」

隊長「ま、そういうことだな。では始めよう。」

トロット「ノリで続けちゃいましたけど、コレはどういう事なんですか？隊長。」

隊長「簡単に言うと弁償の代わりに売り飛ばされて、人体実験の被験者にされる。」

隊長「元ネタを知りたければ、初代か2で50,000c以上借金をしてみる。」

トロット「なるほど、メモメモ...」

隊長「ちなみに名前を奪われたり、記憶を消されたり、喋り方が片言になってる可能性が高い。」

トロット「洋平君が片言になって帰ってきたら、セレンさんとベアトリスちゃん驚くだろうな...」

隊長「自業自得だ。そもそも家に帰れるのかすら分からん。」

トロット「学園は危険がいっぱいですね、隊長。」

隊長「迂闊な行動は慎めというのが今回の教訓だ。」

トロット「勉強になりますね、隊長。」

隊長「さあ戻れ、今度は壺を割るなよ。」